

はじめに

不登校児童生徒に関する文部科学省の調査では、ここ数年減少する傾向が見られ、本市においても減少傾向にあります。しかし、各小・中学校における不登校児童生徒数は依然として多く、憂慮すべき状況であり、緊急に解決を要する大きな課題の一つとなっています。

本市教育委員会では、平成15年4月に「四日市市不登校対策会議」を設置し、2か年にわたり、不登校問題への施策を検討してきました。対策会議では、まず市内小・中学校の不登校の実態や学校・教育委員会による取り組みの現状などの把握に努めました。また、学校での取り組みについてのヒヤリング等を実施し、不登校対策についての集中的な検討を行うなかで、児童生徒や保護者への支援策として「保護者の皆さんへ～子どもの気持ちを受け止めて～」の啓発パンフレットを作成し、配布しました。そして、これらをふまえ、学校への支援策として「不登校の子どもへの指導の手引き」を作成し、配付することになりました。

不登校については、家庭・学校・地域社会でのそれぞれの要因が複雑に絡み合っていると考えられています。そして、その解決のためには、家庭・学校・関係機関・地域社会等が、共に子どもを「守り育てる」という開かれた責任意識をもって緊密に連携・協力することが不可欠です。とりわけ学校においては、学校教育の根幹にかかわる課題であるという自覚のもと、その対応に全力で取り組むことが求められています。不登校の要因や背景が、ますます複雑かつ多様になっているため、教職員が不登校児童生徒一人一人の状況や内面を見つめて、不登校の解決に向けては、学校全体の取り組みとしてすすめることが重要です。

本冊子は、学校における不登校対策の指導の充実のために、平成9年3月、四日市市教育委員会が発行した「登校拒否（不登校）の指導に関する手引書 - 子どもの心を見つめて - 」をもとに、不登校への早期発見や対応のしかた、予防のための「魅力ある」学校づくり、校内の指導体制および関係機関との連携の在り方についてまとめたものです。

本冊子が、不登校の防止と指導のための手がかりとして、学校教育の関係者や教育行政に携わる方々の実践や研修等に、幅広く活用されることを願っています。

平成17年3月

四日市市教育委員会
教育長 川北 欣哉